

調査報告 9

バンコク大学を訪問して

中村学園大学 流通科学部

後 藤 恵 美

1. はじめに

2012年8月24日、中村学園大学流通科学研究所の平成24年度夏期実地調査の一環として、タイ・バンコク市郊外にあるバンコク大学を訪問した。以下、訪問の概要を報告する。

写真1：バンコク大学にて



出所：筆者撮影

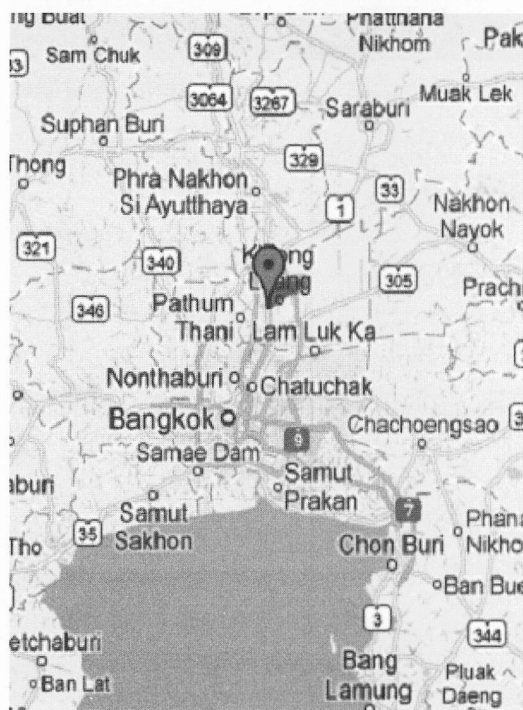
2. バンコク大学概要

バンコク大学は1962年にタイで初めての私立大学として設立された大学である。バンコク大学のキャンパスはバンコク市内にあるシティ・キャンパスとバンコクの北、パトゥムタニ県にあるランシット・キャンパスの2か所に分かれている。現在、学部の1、2年生がランシット・キャンパスで学び、3、4年生とインターナショナル・コースの学生がシティ・キャンパスで学んでいる。

われわれは大学の主な施設があるランシット・キャンパスを訪問した。ランシット・キャンパスまでは首都バンコクから車で約1時間であっ

た。

画像1：ランシット・キャンパスの場所



出所：バンコク大学ホームページ

ランシット・キャンパスは敷地面積がおよそ26.5平方キロメートルと広大で、キャンパス内の移動にはシャトルバスが使用されている。また、自家用車で通学する学生も多く、キャンパス内の至る所に駐車場が設けられている。キャンパスが都市部から離れていることから、多くの学生が敷地内に建てられた宿舎または近隣に居住しているとのことである。

写真2：学内を走るシャトルバス



出所：筆者撮影

バンコク大学の学生数はおよそ27,000名で、タイ最大の私立大学である。

バンコク大学のカリキュラムにはタイ語と英語による2つのコースがあり、学士課程では、タイ語コースとして法律、会計、経営管理、マスコミ、経済、工学、芸術、人文、理工学の9学部、英語コース (International Courses) としてマーケティング、アントレプレナーシップ、インターナショナルホテル&ツーリズム、コミュニケーション、ビジネス・イングリッシュ、コンピューターグラフィックス&マルチメディアの6プログラムがある。修士課程には、タイ語コースが11プログラム、英語コースが2プログラムある。博士課程は英語コースのみで3プログラムである。

主な学内施設としては、クリエイティブ・センター (Bangkok University Creative Center)、2つの図書館 (Central Library、Surat Osathanugrah Library)、コンピューター・センター (Computer Center)、イノベーション・センター (Innovation Center)、テクノロジー・センター (Educational Technology Center)、メディア・プロダクション・センター (Media Production Center)、セミナー&会議施設 (Seminar and Conference Facilities)、アート・ギャラリー (Art Gallery)、東南ア

ジア陶磁器博物館 (Southeast Asian Ceramics Museum)、ブックストア (Bookstore) などがある。これら充実した施設から分かるように、コンピューターやマルチメディア教育、芸術の分野に特に力を入れているそうである。

また、国際交流にも大変力を入れており、海外からの留学生を数多く受け入れている。われわれが訪問した時点で、世界30カ国96大学と提携を結んでおり、日本の大学では、道都大学、羽衣国際大学、関西外国語大学、名古屋工業大学、大阪学院大学、大阪国際大学、大阪女学院大学、大阪経済大学との交流が行われている。

3. 学長表敬訪問

バンコク大学到着後、Santiwat 学長 (Dr. Mathana Santiwat) を表敬訪問した。Santiwat 学長はタイの大学で唯一の女性学長である。Santiwat 学長の他に同席したのは、Dr. Siriwan Ratanakarn (Acting Vice President for BU International College and Assistant to the President for Academic Affairs)、Dr. Panadda Unyapho (Director, International Affairs Office)、Dr. Lokweetpun Suprawan (Instructor, Marketing Department, School of Business Administration) の3名であり、全て女性であった。

はじめに Santiwat 学長より歓迎のご挨拶を頂き、続いて映像を使いながらバンコク大学の紹介をして頂いた。続いて甲斐学長より中村学園大学の紹介をさせて頂き、その後は主にバンコク大学の国際交流の取り組みと中村学園大学との交流の可能性についてディスカッションが行われた。以下はディスカッションの主な内容である。

<バンコク大学の国際交流状況>

バンコク大学には英語で行われるプログラムが学士課程に6、修士課程に2、博士課程に3

あり、海外からの学生が留学しやすい環境が整っている。訪問時点での留学生数は世界50ヶ国から約250名であり、日本人学生もおおよそ20名在籍している。

また、日本の羽衣国際大学、大阪学院大学、大阪国際大学とは毎年夏にボランティア・キャンプを行っている。ボランティア・キャンプはバンコクから約600km離れたタイ東北部の農村に出向き、タイ人学生と一緒に現地調査や村人との交流を行うもので、毎年日本から20名程が参加している。

＜学生たちの日本への関心度＞

バンコク大学では、英語の他に日本語、イタリア語、中国語、韓国語を学ぶことができ、日本に関心のある学生も少なくない。日本の漫画やアニメなどはタイでも人気である。

＜就職状況＞

経済学部 (School of Economics) の場合、卒業後の就職率はおおよそ85%で、悪くはない数字であるという。卒業後に海外の大学院に進学する学生も多い。経済学部の学生に人気があるのは、広報、マーケティング、フィルム産業 (TV、ブロードキャスティング) などである。卒業後にもし就職出来なくても、起業や自営ができるようなプログラムも在学中に学べるようになっている。

インターナショナル・コースの学生に人気のある就職先は、ツーリズム、エアライン、ホテル・マネジメントなどである。

ファッション・デザイン、インテリア、アニメーションを学んだ学生は卒業後はフリーランスで働いたり、起業することが多い。

＜中村学園大学との交流の可能性＞

バンコク大学にはない栄養科学の分野に関心を持たれたようであった。

流通科学部の学生との交流については、タイ語ができないようであればインターナショナル・コースに留学し、英語で授業を受けることも可能と提案された。また、夏休みを利用した短期

交流について検討してみてもよいとのこと。しかしながら、既に日本をはじめ多くの海外大学との交流活動が数多く存在することから、それ程積極的な反応ではなかった。

今後も担当者レベルでの情報交換を続け、何か一緒にできることがあれば是非検討しましょう、という方向でディスカッションは締め括られた。

4. 学内ツアー

続いてランシット・キャンパスの主な施設を案内して頂いた。

既述のようにマルチメディア教育に特に力を入れているとのことで、最新機器が備え付けられたパソコン教室や学生が映画を撮影・編集・上映出来る本格的な設備、学生たちの作品が展示されている博物館などを見学させて頂いた。

学内ツアーで特に印象的だったのが、学生たちの休憩スペースである。授業の空き時間や学生の集まりなどに使用することができる休憩スペースには、卓球台・ブランコ・テレビ・マンガ・ビリヤード台・ダーツ・サンドバッグなどが置いてあり、学生たちは思い思いにリラックスした時間を過ごすことができるようになっていた。案内をしてくださった Dr.Panadda Unyapho (Director, International Affairs Office) によると、バンコク大学の教育のキーワードの一つに“Creative”があり、広大で緑豊かなキャンパスや最新のIT環境、そして自由に遊べる休憩スペースも全て学生たちのクリエイティビティを育成するのに必要なものであるとのことだった。日本の大学ではあまり見かけることがない設備のため、新鮮な驚きを覚えた。

写真3：休み時間にブランコに興じる学生たち



出所：筆者撮影

5. おわりに

中村学園大学流通科学部では、平成25年度からのアジアビジネスコース開設に向けて準備中である。アジアビジネスコースでは、海外スカ

ラシップ・プログラムと海外インターンシップ・プログラムを計画している。今回のバンコク大学訪問は、この海外スカラシップの提携校を探すという目的もあった。

バンコク大学は最新の教育設備、外国人に優しい教育プログラム、落ち着いた環境、礼儀正しい学生たちという、本学学生の派遣先としての条件が整った大学であるという印象を受けた。また、エネルギー溢れるタイの経済を身近に感じることもでき、福岡からバンコクそしてバンコク大学へのアクセスも良好なことから、本学学生の派遣候補大学として前向きな検討を望みたい。

<Web サイト>

バンコク大学公式ウェブサイト（英語版）

http://www.bu.ac.th/th/index_en.php